

令和7年度 第2回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和8年2月26日（木）18:30～19:30

場 所：阿波海南文化村 海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中12名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、吉田課長補佐
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、宇田

■ 会次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議事
 - （1） 海陽町学校再編基本計画について
 - （2） その他
- 4 閉会

■ 議事（１） 海陽町学校再編基本計画について

（事務局）

１１月開催の委員会でも説明させていただきましたが、令和６年３月にこの学校のあり方検討委員会で審議し、とりまとめた海陽町学校再編基本計画について、あらためて概要を説明いたします。

学校再編基本計画の策定にあたり、令和４年度に小中学校の教職員、保護者を対象にした海陽町学校のあり方に関するアンケート調査を実施、令和４年度と令和５年度に本委員会で審議を重ね、学校再編基本計画をまとめました。

学校再編基本計画の策定は、学校と地域が少子化の影響を受ける中、学校の持つスケールメリットの考えを基本とし、小中学校の適正規模を検討した結果、海陽町の教育の特徴や特性を４つの視点でまとめ、再編の方針として、小学校２校、中学校２校体制に移行し、その後に小学校１校、中学校１校体制に移行することも考慮する方針を示しています。

学校再編の方針は、令和４年度の学校のあり方検討委員会の答申のとおり、学校規模の維持を図りながら教育の充実を図っていくため、穴喰小と海南・海部小で小学校２校、中学校２校の体制へ移行し、続いて１校１校体制へ移行する方針です。

１校１校体制へ学校再編が決まるまで、あるいは１校１校体制移行後も想定して、小規模校の教育の充実との方針を記載しています。

再編統合の進め方は、地域に学校再編の組織を設置し、地域の参加をえて、学校再編を進めていく方針について記載しています。

続いて、学校再編のスケジュールについてご説明します。

学校再編のスケジュールですが、学校再編基本計画を定めた時点では、小学校２校、中学校２校体制を令和９年度以降としており、全学年が複式学級となる時を再編統合の目安にするということをこれまでのあり方検討委員会でも話し合ってきました。

児童数の推移にあるとおり、海部小学校の全学年が複式学級となる令和１０年度スタートが現実的と考えています。再編統合の流れは、住民説明会を開始し、海部小と海南小の合意形成に向けて地域に検討組織を立ち上げ、学校の統合に向けて検討していきます。その後に地域や関係者の意見をお聞きしながら、海陽中と穴喰中の統合、穴喰小と海部小、海南小統合校との統合についても検討していきます。

以上で、説明を終わります。

（皆津委員長）

それでは、事務局より説明してもらいました。質問はありませんか。

（戒田委員）

海部小学校が、令和１０年に全学年が複式学級となるということだが、例えば１学年だけ移住者が多く来て、複式が解消された場合は変わるのか。

（事務局）

これまでもそのような話は実際にあった。場合によって超えることもあるかもしれないが、この先は人数を減ることも考えて、ちゃんとメリットを生かしながらやっていくということで、あり方検討委員会から答申いただいてこの計画ができています。

(三浦教育長)

児童数の推移は全体の数字になる。ここから特別支援学級の子どもたちを除いた数が普通学級の数になるので、もっと少なくなるのが現状である。

(辻委員)

放課後こども教室のことについて、「再編統合後の小学校において学校敷地内での放課後こども教室の実施を基本とします」と書いてある。

今は海部と海南に2つあるが、統合した場合にはどのようになるのか。1つの学校敷地内でののか、あるいは今のまま海南こども館を使用できるようにするのか。

(三浦教育長)

教育委員会の方針として、放課後こども教室は学校施設を活用していく方針である。ただ、海南小学校と海部小学校の空き教室がない状況である。教室が使えないと難しいと思うため、その時点で使えなければ、今のままでやっていくことも考えている。

(平岡委員)

最終的には、1校1校体制に向かうという流れなのか。

(事務局)

児童数を見ても、どんどん減ってくる形になるため、長期的には1校1校体制になる。また、これまでの検討委員会の中では、部活動の関係で中学校が1校になる形が先に来るのではないかという話も出ている。その流れにあわせて小学校も1校になることも考えられる。

(平岡委員)

小学校が1校となるのを阻止するために、例えば児童数がこの人数以上なら統合しないといった目安はあるのか。

(三浦教育長)

1番の目安はすべての学級が複式になるかどうかである。現在は海部小と栄喰小に複式が1つあるが、県から加配いただき、教頭も担任をすることで解消している。これが、すべて複式となると教頭先生が担任をしても、1つは1人の先生が2学年を教えなければいけない状況になる。そのような環境は子どもにとっても、教員にとっても、大変であると思うため、そこが目安になる。

(重村委員)

町外からの転入出状況について、あまり多くないというのが現状なのか。

(事務局)

増える年もあるが、トータルで見たら変わりはないと思う。

(岩浅委員)

海陽町教育要覧の令和元年度版を見ると、令和元年度に推測した海部小学校の令和7年度の児童数は39人とされているが、令和7年度の教育要覧では49人となっている。7年前の推測よりも10名増えている。先ほどから説明があるように、今後どうなるかというのはわからないが、このような数字が出ていることも指摘をさせていただきたい。

(事務局)

町全体で見れば、総合戦略の中で予測している人口よりも減っているのが現状である。ただ、エリアごとで見れば、海部小はそこまで減ってないなど、とどまるところはあると思う。

(三浦教育長)

児童数の推移は令和14年度までであり、今年度生まれた数、生まれる予定の数を入れている。この数字も完全に正しいものになるか分からないが、岩浅委員の話のとおり、この7年間で海部小が推測よりも10名増えているということは、町外からの転入や町内の校区内で動いた可能性もあると思う。

(皆津委員長)

高知の甲浦の方から来るようなこともあるのか。

(事務局)

東洋町は生活圏ということで、海部高校の進学を見据えて、先に海陽町で英語教育など特色ある教育を受けさせたいということで来ている話も実際にある。

(三浦教育長)

居住地についても、区域外通学という形で、申請を受理した後に東洋町と海陽町の教育委員会同士で協議をして認められると、東洋町に住所があっても海陽町の学校に通うことが可能である。

(谷本委員)

令和8年度から準備段階に入るということで、1回目の住民説明会はいつ頃を予定しているのか。

(三浦教育長)

この検討委員会で令和10年度の上申を得て、答申をいただいた後に教育委員とも合議を行う。また、町長部局や議会にも報告して進める形になる。丁寧に合意形成を図ることを考えると、定かではないが、早くても5月末から6月になると思う。

(皆津委員長)

今後は住民説明会も予定されているということで、ホームページだけでなく、紙媒体でも丁寧に発信して住民に伝えていくこともお願いしたいと思う。

(事務局)

これまでの検討委員会の会議録や資料はホームページで見られる状況にしている。

また、広報でもこの会のことを連載的に掲載しており、併せて継続していく形になると思う。

(戒田委員)

海陽町では3つの場所が合併して1校1校にしていこうということだが、隣の東洋町や牟岐町の状況を見ると維持が難しくなっていると思う。最終的には、東洋町や牟岐町の児童生徒も海陽町に来るみたいなことになるのか。

(三浦教育長)

運営ができなくなってきたら、組合を作って運営していく形に将来的になるのかなと思う。

(重村委員)

海部小学校のPTAの会がある時、やはりこの話題が出てくる。移行期間で丁寧に進めていくということだが、どのようにやっていくのか、特に在校生の下学年は自分たちに直接関わってくるため、不安になっている。

実際に令和10年度に決まったとしても、その2年間で準備期間でいいのかどうかという不安もこれから出てくると思う。そのような小学校の保護者の意見があることも検討いただきたいと思います。

(皆津委員長)

他に意見がなければ、決議に移りたいと思う。もし、ご承認をいただけるなら、拍手でもってご承認をお願いしたいと思う。

(各委員)

一同、拍手にて承認

■ 議事(2) その他

(吉成委員)

再編のことについて、教育委員から何か意見が出たりしていないのか。再編の時期も令和10年が適当と考えられているのか。

(事務局)

この検討委員会と教育委員会の両輪で同じように中身を吟味しながら話をしている。今回の話も、教育委員会内で話し合うことになる。

また、再編の時期は学校再編基本計画の中で、すべてが複式学級になるのが免れない状況というのが1つの条件になっている。教育委員は各地域の方であり、その地域の住民としての気持ちもある。そのことも図りながら、話し合っていきたいと思う。

■ 皆津委員長から三浦教育長に答申書を提出

閉会